

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいうえおん			
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		～	2025年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38人	(回答者数)	37人
○従業者評価実施期間	2026年1月5日		～	2025年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・事業所で過ごすすべての時間をプログラム化し、見通しのあ る一日の流れを提供している。	全ての時間をプログラム化し、活動の目的や流れを明確にする ことで、気持ちや行動の切り替えが苦手な子どもでも安心して 安心して参加できる環境づくりを行っている。また、学校生活 を見据えた集団参加やルール理解につながる支援を意識し、成 功体験を積み重ねることで自己肯定感や自己効力感の向上を 図っている。	既存のプログラムについて定期的な振り返りを行い、子ど もたちの反応や成長の様子を踏まえながら、内容や進め方の 見直しを行っている。 学習の時間・活動の時間・お話の時間それぞれについて、ね らいや支援目標をより明確にし、子どもの特性や発達段階に 応じた段階的な参加ができるよう工夫を重ねていく。
2	行動面だけで評価するのではなく、感情や経験の積み重ねに着 目し、子ども一人ひとりの内面理解を大切にした支援を行って いる。安心できる関係性の中で、挑戦と成功の経験を積み重ね ることにより、集団参加への意欲につながっている。	子どもの行動のみを評価するのではなく、その時の気持ちや背 景を職員間で共有し、「なぜその行動が起きたのか」を考える 視点を大切に支援を行っている。 活動への参加が難しい場合でも、参加の形や関わり方を段階的 に設定し、子どもが自分のペースで挑戦できるよう工夫してい る。	子どもの行動の背景にある感情や経験に着目する支援をさ らに充実させるため、職員間の情報共有や事例検討の機会を 定期的に設け、支援の意図や関わり方を統一していく。ま た、挑戦と成功体験を意図的に積み重ねられるプログラム設 計を強化し、子どもが自分の成長を実感できるよう振り返り や可視化の仕組みを整備する。
3	子どもの特性に合わせた関わりを基本としつつ、保護者が何に 困り、どんな成長を願っているのかを共有しながら支援を行っ ている。事業所での取り組みが家庭や学校生活につながるよう 意識している。	家庭での行動パターンや学校での様子を聞き取り、事業所の支 援に反映することで、子どもにとって一貫した支援環境になる よう工夫している。 学校生活で求められるルールや集団参加のスキルを意識したプ ログラム構成を行い、学校生活へつながる支援を行っている。	学校での様子や目標を把握し、事業所での支援内容に反映 することで、学校生活に直結する支援をより具体的に行う。 学校や関係機関と連携が必要な場合は、情報共有の手段やタイ ミングを整理し、円滑な連携を進める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	プログラム準備や振り返りを重視しているため、送迎体制にか ぎりがあり、対応できる範囲が限定されている。	送迎業務を増やすと支援準備や振り返りの時間が削られ、支援 の質低下につながる懸念があるため、現状の体制での両立が難 しい。	プログラム準備や振り返りを重視しているため、送迎体制に 限りがあり対応できる範囲が限定されている。送迎業務を増 やすと支援準備の時間が確保できず支援の質低下につながる ため、送迎の範囲や時間帯の見直し、職員の業務分担の工 夫、業務効率化を進める必要がある。また、保護者へ支援方 針と送迎体制の理由を丁寧に説明し、理解を得られるよう努 める。
2	地域の子どもとの交流や放課後等デイサービス・児童館等との 交流機会が少ない。	保護者のニーズ（宿題対応や学習支援）に応えることを優先し ているため、プログラムの時間配分が交流に割けない状況に なっている。	平日での交流が難しい場合、地域のイベントや交流会の情 報を保護者へ共有し、家庭と連携した参加を促す工夫を行 う。
3	保護者向けの家族支援プログラムや情報提供の機会が十分に 整っていない。	保護者のニーズが多様であり、どの内容をどの形式で提供す るか整理が必要な状況である。	家族支援プログラムの充実が課題である。職員向けのペア レントレーニングは実施したものの、保護者向けの支援は 十分に実施できていない。今後は、保護者支援の内容や目的 を整理し、参加しやすい形式・時間帯での講座や相談会の実 施や、家庭での支援につながる情報提供を充実させる必要が ある。